



【プロフィール】

長崎県出身。土木技術者、博士(工学)、技術士。株式会社共同技術コンサルタント福岡支店長、一般社団法人リペア会副会長。「橋の町医者」として橋の計画・設計・点検・診断・耐震設計に携わる。長崎大学インフラ長寿命化センターで社会人の再教育に関わり、同じく同センターで指導を行う出水享さんとともに「子どもたちに土木の大切さを伝えたい」と『デミーとマツ』を結成。ボランティアでさまざまな土木体験イベントを行う。

ワクワクドキドキの土木体験イベントで 100年後の日本の“安全”を支える

噂の土木応援チーム デミーとマツ 松永 昭吾氏

本当は“カッコいい”土木の仕事

道路や河川の堤防、橋、ダム、トンネル、上下水道など、社会のあらゆるインフラを支える技術のひとつが、土木技術です。普段通りの生活を送るためには、確かな土木技術の上に成り立つ建造物が必要不可欠な一方、土木の仕事に対しては『きつい・汚い・危険』といういわゆる“3K”のイメージが根強く、人材不足という課題があります。地震や津波、台風、大雨などの自然災害の脅威にさらされている島国の日本において、未来の国土を担う人材の確保が急務になっています。

そこで立ち上がったのが、工学博士の松永昭吾さんと出水享さんが結成し

たユニット『デミーとマツ』です。小学生を中心にその保護者らも交え、これまでになかった体験型の土木イベントを開催しています。『デミーとマツ』が企画するイベントは未知の体験ばかり。例えば、採石場ではダイナマイトを使って巨石を爆破したり、またあるときは斜面へのセメントの吹き付け工事を体験したり。

松永さんは「ダイナミックな土木の仕事を体験してもらうことで、子どもたちのワクワクを引き出し、興味を持ってもらう。土木の仕事が“カッコいい”ということを知ってもらいたい。それが土木に携わる人を増やすための第一歩です」と話します。

楽しいだけではなく 土木の“大切さ”を伝える

『デミーとマツ』の土木イベントを始めたのは、2016年春のこと。これまで福岡、佐賀、長崎の3県で10回を重ね、約680人が参加しました。楽しい体験だけではなく、土木技術の重要性を伝えるためにも座学を交えてイベントを行っています。それは土木技術が日本のインフラを支えるだけではなく、過去の自然災害を踏まえ今後起こり得る災害をいかに減災していくかなど、未来に暮らす人々の安全を守る人材育成につながっていきます。

「土木技術が、私たちが暮らしている社会の土台をつくっていることへの



1 イベントには女子児童も参加。斜面の傾斜をものともせず上る姿を披露した。こうした体験が未来の“土木ファン”をつくっていく

3 重機の操縦体験では、そのスケール感に子どもから大人までが興味津々で、参加者の中には「重機を購入したい!」という児童もいたそう

2 斜面へのコンクリート吹き付け工事を体験する児童。ヘルメットやゴーグルなどの安全器具や工事現場の作業員のフォローで安全を確保

4 実際に工事現場で働く人たちの話を聞くことで、土木体験を楽しむ機会だけではなく“学びの場”としてイベントを確立している

“気づき”を大切にしています。採石場でのイベントでは、ダイナマイトで巨石を爆破するというインパクトと同時に、そこで加工された石が、じつは高速道路や橋、高層建築物を形作っていることも説明する。そうすることで土木技術が日本で暮らすすべての人の役に立っている点を理解してもらいたい」と松永さん。

また子どもたちが土木現場で働く人たちの姿を目にすることも、土木技術を担う人材育成につながるといいます。

松永さんは「小さいころはテレビで見たプロ野球選手など、実際に見たカッコいい仕事に憧れます。閉じられた現場の中で活躍している土木で働く人たちの姿も、実際に目にすることで“なりたい”という気持ちが生まれていくはず。50年後、100年後のインフラだけでなく日本の安全をも守っていくのは子どもたち。参加していただく保護者にも、子どもたちのワクワクを通じて土木技術の大切さを実感してもらいたい」と未来を見据えます。

企業の壁は“ファン化”で突破

土木イベントを行う上で、最大のハードルはイベントの開催場所となる企業からの協力。安全管理上、または工期などの都合から、開催への交渉は難航するケースもあるといいます。

松永さんは「いかに現場スタッフの理解を得て、子どもたちに安全かつ魅力的な体験をさせるか。立ち入り禁止のその先を見せるためには「邪魔をします」という本音を伝えることが必要」と、未来の日本のインフラを支える人材づくりなど社会貢献への意義に共感してもらい、『デミーとマツ』のファンになってもらうことから始めるそうです。

そうして協力企業と企画から協議を行い、当日には従業員のご家族にも足を運んでもらうなど一緒にイベントをつくりあげることで、自分たちの仕事の社会性をあらためて感じてもらい、仕事に誇りを持っていただく機会にもなっています。

『デミーとマツ』を全国へ広げる

2018年度には熊本、大分、宮崎、

鹿児島でのイベントを控え、九州全土へと活動を広げる『デミーとマツ』。今後も福岡、長崎を中心に継続してイベントを開催していく一方、全国へと取り組みを拡大する計画があります。

「土木業界とのつながりを深め、『デミーとマツ』のノウハウをより多くの企業や土木関係者に伝えることで、次の『デミーとマツ』が全国で現れるような流れをつくっていきたいと思っています。そうして日本全国で開かれた現場、開かれた工場が増えていくことで、もっと土木を目指す子どもたちを増やしていきたい」。

ボランティアで活動する『デミーとマツ』は、全国へと活動の波及を目指します。



左：松永さん、右：出水さん

噂の土木応援チーム デミーとマツ

<https://doboku.wixsite.com/index>